

七十一

和書門			
四	八	七	〇
一	二	七	〇
九	三	一	架
冊	架	函	號
類			

內閣文庫			
四	八	七	〇
九	二	七	〇
二	三	一	架
架	冊	號	類
和書			

內閣文庫	
番號	和 48780
冊數	93 (71)
函號	149 112



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



武徳編年集成卷之七十一

木村高敦 撰

慶長十九甲寅年

十一月大

○廿日 畿内大雪揚州ハ雪降行ス

○廿一日 神君ノ命ニ依テ村田權右衛門編笠

ヲ竿ノ上ニ繫テ攻口ニ至リ矢玉ヲ制シ城神ニ

入和融ノ事ヲ相説ス 村田ハ元 治徳公ノ命ニ

仍テ本多美濃守其部下ヲ率テ平野ヨリ天王寺

ノ邊陣ヲ遷シ住吉御陣ノ前備トシ屯ス池田

利隆新家居村ノ敵ヲ破ル
○夜ニ入住吉ノ御陣營ニ来リ伺フ者アリ守禦
ノ士是ヲ捕ヘ尋ル所藤堂和泉陣所ニ往ントノ
道ヲ誤リ爰ヲ徘徊スト答フ然レモ藤堂和泉守
カ此ハ天王寺ナレハ汝爰ニ至ル最モ怪ニキ
由ニテ推問スル處城ヨリ出ル者ハノ秀頼ノ印
章ヲ懐中ス其詞ニ曰

主君中入ル今度申す所調後古所云表ハ
引出事ヲ由候ハシト志未踏ト申合石日ニ
後切下ル仕ル於事成志ハ約進封大回上

皇氏中忠賞ウハ行ク去也

十一月廿一日 秀頼

後堂和泉守及

彼使者カ曰藤堂淺野以下太閤恩顧ノ大名密々
志ヲ城中ニ通シ或ハ珍酒佳肴ヲ獻シ衣服ヲ送
ルト云々 神君其詐偽ヲ察シ則高虎ヲ召テ
件ノ書ヲ賜ハリテ皆々メニ足下忠志ヲ竭ス
親切ナル故城中是ヲ憎ニテ大野等謀ヲ構ヘ予
カ股肱ヲ失ハセシムル企ル處疑フヘカラス
家康何ニソ區々タル少人ノ計策ニ陷ンヤ始汝

洛ニ於テ予速ニ出馬スルヲ勿レ預シメ高虎據
州ニ赴キ敵ノ消息ヲ測リ注進スヘキ間其趣ニ
依テ進奏セシムヲ諫メケレモ其詞ヲ容ス遮
テ出馬セシム敵是ヲハ知スノ計策ノ書ヲ贈ル
者歟彼謀者ヲ汝ニ與フ能々紀明シ手足ノ指ヲ
斷テ秀頼ト云フ二字ヲ點墨シテ城ヘ送り返シ
再ヒ計畧ヲ成サシムヘカテナル旨命セラレ
高虎感謝不斜ノ則謀者ヲ紀明シケレハ元來和
州ノ土民ナリ家貧シク子孫多キニ城內ニ仕
ヘケルカ大野治長カ旨ヲ兼テ假令城外ニ死ス

ルモ子孫ヲ厚ク賞スヘキ約ヲ堅クシ彼謀書ヲ
竹田榮翁ヨリ得テ出タル由白状ス高虎尚又推
問セシカハ大野主馬カ從士吉川瀨兵衛ナリト
云高虎此趣ヲ言上セシメ手足ノ指ヲ斷テ額ニ
點墨シ帑小旗ニ大野カ鉈ノ紋ヲ画テ渠カ背ニ
捺セ戸板ニ載テ城門ノ外ニ捨置処城兵忽出テ
是ヲ卑入ル爰ニ於テ諸將聖文神武ノ徳ヲ仰キ
敵ニ志ヲ通セシムスル者一人モ無シ
○是日城兵鹽江甚ク書牒ヲ西使ニ授ケ池田
武藏守利隆陣營ヘ遣ヒ諸大名關東土木ノ役繫

キヲ厭ヒ志ヲ城内ニ通スルヲ數輩ニ及リ利隆
早ク回忠アラハ備前義作ヲ増封セラルキ間
同意ニ於テハ予密ニ城ヲ出テ報ヲ聞ヘシト申
送ル利隆其西使ヲ捕ヘ撤シ共ニ住吉ノ御陣ニ
獻シケレハ則西使ヲ拷問ノ志ヲ通スル者ヲ聞
玉ヲ亦往日秀頼ハ篠原又右衛門ヲ迫ク呼テ汝
浪客等ヲ引率シテ池田宮内少輔忠雄カ領内淡
路ヘ渡海シ由良ノ城ヲ拔テ由良岩屋ノ湊ニ番
舩ヲ繫キ四國鎮西ノ運送ヲ惱メスヘシト下知
アリ篠原則淡路ノ素生工ヘ忽調畧ノ國人ニ内

通スル者モ出来リケレハ浪客等悦ンテ大坂ノ
舩五十餘艘用意シ渡海セントスル時大野修理
亮ハ今戦起ラナル先ニ妾リテ御ニテ利ヲ失
ハ、味方ノ弱リタルニ必ス渡海スヘカラス
ト制シケレハ各許諾セズ修理亮怒テ舩ヲレハ
コソ無用ノ軍ヲ好ムトテ彼舩氏ヲ焼割ケルカ
今ニ至テハ後悔シ忠雄并先臣等ニ書ヲ投シ偽
リテ淡州ノ士民大畧秀頼ニ内應ス忠雄速カニ
秀頼一屬スヘキ旨申送ル處忠雄修理亮カ使六
人ヲ虜ニシニ通リ狀ト共ニ住吉ノ御陣堂ニ獻

又福嶋備後守正勝モ秀頼贈ル処ノ數通ノ書牒
ヲ捧ケ台覽ニ入ル西京極力陣所今里ハ城湟
ヲ去ル一遠カラズ依之二郭ノ砦ヲ築キ新庄主
殿直好二ノ曲輪ヲ守リ松平伊豆守信一本丸ヲ
守衛スヘキ旨命ヲ蒙ル

○廿二日 神君茶磨山ニ渡御此山ヲ御本堂
トセラルヘシトテ矩繩ノ御沙汰アリ山頂狭少
ニノ近臣ノ外居ルヘキノ地十々御番士ハ一心
寺ヲ以テ屯トスヘシト云々良ノ麓柵門ノ内番
所西向六疊外番所東向十二疊御玄關三間ニ五

間ニノ床アリ御寢所ハ絶頂ニノ南北十二疊ノ
外ニ三間ニ一間ノ庇アリテ五尺ノ縁ヲ附ル西
ノ麓ニ四疊半ノ茶亭南ノ麓ニ二間四方ノ納戸
東向ニ二間四方ノ浴室ヲ建ヘシ東ノ麓ニ一十
疊ノ一室是近臣ノ席トスヘシ北ノ麓ニ庖厨ヲ
設ケ惣臺盤所ハ乾堀ノ外タルヘシ其南ニ後備
ノ陣營ヲ經營スヘキ旨工匠ノ長中井大和守正
次ニ命セラル平均ノ後ハ勝山ト称セシハ此
山也此時老臣及井伊藤堂本多義濃守松平下總
守等伺候ノ茶磨山ニ御移リ以後ノ陣所ヲ定メ

テ御左ノ方ハ義直郷御右ノ方頼宣郷本多正
純永井直勝カ組安藤成瀬各御左右ニ備フハシ
大御番頭ニ組御前備タルハシ 台徳公ハ岡山
ヲ御本營トセラルハシ 今ニテ加賀利
常カ陣所也 御左備ハ
大御番頭高木主水正次御右備ハ同阿部備中
守正次御後備ハ御書院番頭水野隼人正忠清春
山伯耆守忠俊タルハシト云々諸候追々来リ拜
謁ス還 御ノ時釣命ニ依テ 大樹御進獻ノ騾
騾ヲ率来レハ城ノ方ニ向テ嘶フ 神君ハ敵陣
ニ向テ嘶ノ馬珍敷ト 御誕アリ藤堂高虎寔ニ

吉兆ノ旨ヲ述ル御喜色ノ餘リ地道一返馳二返
乗セ玉フ大名皆蹲踞誓首ノ拜見ス干時 上意
アリ壯年ノ頃ハ戰場ニ於テ馬上ニ火砲ヲ放シ
矢ヲ發シテ敵ヲ拒キ平日ハ騎上ニ鷹ヲ臂ニシ
終日馳驅シケルハ老齡ノ今ハ常馭廿ハ輒スカ
テスト云々藤堂高虎今以強盛ノ御事ト稱譽ス
斯テ佳吉ニ還 御アリ
○仙臺少將政宗其兵一万五千餘ニ行木津今宮
ノ間ニ着陣ス其攻口十五町ニ火砲ノ率三千人
ヲ賦スル者十ニ

○長崎ヨリ長谷川左兵衛藤廣間宮權左衛門伊
治飯齋ス

○慶長日記ニ新台徳公大坂御着陣以後武陽
ヨリ駄馬百四十匹に白銀ヲ負セ是ヲ登スト

○十四日 上杉中納言景勝河内路ヨリ進ニテ
高畠ニ陣ニ走ヨリ信幾野堤ヲ歴テ中間村ニ屯
之大坂城ノ良方十八猫間川ノ際ニ押詰ル素ヨ
リ城郭高俊ニシテ寄手ノ仕寄場ハ陣營ヨリ往
及スル餘ヲ眼下ニ見澄ニ然モ此辺ニ重塙ナレ

ハ上下ノ狭間ヨリ筋違ニ火砲ヲ打掛ル川
非ス後世焰硝御倉ニ建テ城ノ良ノ方ニテ仕寄
路ノ如ク城門ヨリ鱗形ニ土俵ヲ積並ニ入替入
力ハ輕率ニ出シ火砲ヲ架テ子々ハ雨脚ヨリ繁
キ砲玉殆ク避セシメテ寄手ノ肩甚ク衆ニ計云
ハ上杉家ノ仕寄妙術ヲ以テ遂ニ城辺ニ迫ル
此宮城丹後守豊盛備前嶋トテ火砲ニ中リ疵ヲ
被テ死シ神君朝比奈源六郎正重ヲ以テ其苦惱
ヲ問ヒテト柳源遠江守康勝其部下ヲ率ニ城ノ
東北邊間大和川辺稲田村ニ陣ヲ移スハキ音

命以蒙... 神君松平臣殿願忠利... 於于攝州
○元丑日、神君松平臣殿願忠利、召于攝州
茨田郡仁和寺堤、以築助之、命其、且
伊奈筑後守正次、身奉行、此、諸候、人、吏、以、
蘆荻、以、拂、切、也、敵、方、日、以、新、切、之、春、日、井、堤、以、修、築、
之、諸、軍、往、及、以、便、利、之、得、之、也、由、之、論、之、
池田越前守重影、之、召、于、今、度、尼、之、崎、表、之、手、
置、宜、之、也、之、感、也、之、也、
○上杉黃門景勝、力、向、了、京、橋、良、之、方、青、屋、口、日、日、
一町半許、先、之、信、幾、野、堤、之、城、方、日、日、堀、切、之、事、其、

間一町半程、之、置、于、都、之、之、所、各、俄、之、柵、之、附、之、
切、之、遂、之、之、肝、要、之、不、爰、之、以、之、敵、城、之、向、之、能、是、
之、量、之、之、吾、兵、攻、拔、之、永、之、持、保、之、之、理、之、之、時、之、
猶豫、之、之、忽、是、之、之、陷、之、之、散、之、之、身、命、之、之、厭、之、之、莫、無、之、之、此、
柵、之、之、如、之、之、今、晚、是、之、之、破、之、之、難、力、之、之、不、之、之、之、夜、
中、城、之、之、日、多、勢、之、之、登、之、之、之、於、之、之、持、保、之、之、力、之、之、
之、之、之、必、定、之、之、之、如、之、之、之、之、切、之、之、之、勤、之、之、好、之、之、
之、之、之、答、之、之、伊、藤、口、之、之、緘、之、之、之、之、之、之、之、先、達、之、之、上、
之、之、之、柵、之、之、之、候、向、城、之、之、之、之、之、之、之、之、秀、頼、
天、守、之、之、日、是、之、之、見、之、之、後、藤、又、之、之、兵、衛、基、次、疾、馳、至、之、之、此、

敵ヲ追拂フハ其旨下知也。乃此後藤ハ則青屋口ノ槽ニ登リテ熟覽之。今此力是作候ノ兵ニノ當ヲ設クル敵ニアラス。トテ兵ヲ棄也。又果シ景勝カ作候等大和川ノ岸ナリ藤堂高虎カ舊館ノ跡ヲ向城ニ成シテ可ナルハ其旨評議ノ忽退ソキ故ル。斯テ安藤屋代伊藤往吉ニ故リ信幾野堤敵方ノ柵其虚實及ヒ地勢且景勝カ陣所ノ北方信幾野川ヲ隔テ佐竹カ向テ今福ノ堤モ同ク城方ヨリ三ヶ所堀切テ三重ニ柵ヲ振テ微勢相守ル旨演説ス時ニ神君ハ明早天ヨリ信幾野今福

両所氏ニ上杉佐竹カ勢ヲ以テ是ヲ破ラヌ一キ旨命アリケレハ景勝カ方ハ御使番佐久間河内守政實小栗又一忠政兩人往テ直江山城守兼續ハ上意ヲ傳テ直江カ曰一昨日後軍參著シ長途ノ疲勞未タ甚々ナリ暫ク兵馬ヲ休メ敵柵ヲ破ラント答テ佐久間カ曰謙信以來著陣ノ忽雌雄ヲ決スル家法ノ由テ兼知又兼續ノ詞心得カクシト云ケレハ直江不及一言。鴻命重ケレハ明朝攻破ルハ其旨兼諾セシム佐竹カ方ニテモ直江山内膳命ヲ受テ明朝必今福ノ柵ヲ拔

ニト称ス今夕後藤又兵衛ハ天満宮ヲ遷葬セ
ニト槽ヨリ此表ヲ視ル北東ノ寄手先備ト跡
備ト繰替ル跡也一定明日此口ヲ攻ヘキ歟ト云
ヘリ其夜景勝軍談ヨ明日一陣ハ須田大炊久長
義二陣ハ安田上総久頼易ト定ムト云
○十六日曙上杉景勝備ヲ信幾野堤ニ出ニ佐
行義宣ハ今福堤ニ進ム榊原遠江守康勝カ組本
多出雲守忠朝カ組堀尾山城守忠晴等ハ大和川
ノ上ニ備ヲ立其外四面ノ寄手城ニ逼ラニトス
爰ニ景勝カ向フ処ノ信幾野表ノ軍監安藤治右

衛門正次伊藤右馬允正世屋代越中守勝永今朝
又午候ト称シ出ケル處勝永ハ嫡子甚三郎忠正
ヲ呼テ私語ケルハ汝素膚ニテ足輕一人モ携ヘ
ス手廻許ニテ早ク来ルヘシトテ返ス暫クリテ
甚三郎来ル干時越中偽リ呵十カラ馬上ニテ進
メハ安藤伊藤ハ步行ナリケレハ治右衛門高聲
ニ越中馬ヨリ下川立ヘシト云ヘリ勝永取敢ス
老人步行ニ堪スト答ヘ二人ヲ先達セ越中ハ跡
ヨリ静ニ乘行テ三士堤ノ下ニ至ル頃屋代カ從
士一人敵ノ火砲ニ中ル一ノ柵ヲ守ル大野治長

カ隊長井上五郎右衛門頼次火砲三十挺ヲ發セ
シカ吾兵迫ク進メハ玉越テ當ラヌ柵ノ左右ニ
木戸アリ一方ハ安藤伊藤一方ハ屋代甚ニ
即向テ治右衛門カ從士酒井左一郎柵ヲ破ラシ
トスル処ニ井上五郎右衛門柵越ニ鎗ヲ投突ニ
シケレハ左一郎疵ヲ被テ治右衛門柵越ニ一
鎗突ケルヲ井上カ郎從治右衛門カ鎗ヲ切折其
時甚ニ郎柵ヲ破リ競ヒ進ニテ井上カ首ヲ得タ
リ伊藤正世カ家從安西金兵衛柵ノ外ヨリ敵ノ
鎗ヲ引奪ヒ敵ヲ突伏柵ノ中ニテ首ヲ取伊藤并

屋代勝永曾ヲ奮ヒ勝永郎從石川右近市川半
右衛門首級ヲ得ル安藤屋代下知ノ早々引取六
七間來返セハ上杉勢馳至リ柵ヲ破ル一二重多
却豊後切ヲ顯シ北條清右衛門上泉主水櫻井因
獄大股ハ左衛門同彦六晴十ハ戦死ヲ遂ル敵渡
部内藏入カ隊長山市左兵衛以下三ノ柵ハ引入
二ハ上杉勢一二ノ柵ヲ取敷テ景勝謀本信貴野
ノ横堤ニ備ハ直江山城守ヲ以テ黒金孫左衛門
火砲ノ率三百ヲ南大和川ノ堤ヲ掘切セ蘆原ノ
中ニ屯セシム是ハ戰場ヨリ遙ク暇ナレハ諸人

其故ヲ悟ラスヲ大ニ怪シムト云々
○佐竹義宣カ向フ今福川柵ハ信幾野ト其間僅
一町細キ小川ヲ隔ツ敵方ハ備前嶋町口ヲ守ル
矢野和泉正倫合属ノ騎士五十ヲ率テ終夜篝火
ヲ燒ニケ所ノ堀切ヲ深クシ火炮ノ率ヲ張出シ
置処ニ今朝佐竹カ先登戸村十太夫等五六十人
堀ノ陰ヨリ忍ヒ寄テ透間モ無ク切掛リ輕卒ヲ
追散シ堀切ノ辺ニテ寄来ケレハ城兵十人許堀
切ノ假橋ヲ渡テ戦ヒケルカ五人ハ戦死シ残ル
五人ノ内三人ハ瘋ヲ蒙リ二人ハ柵中ニ引取

ル佐竹カ先隊梅津半右衛門競ヒ撃テ矢野正倫
ハ火炮ニ中リ及川南右衛門ニ首ヲ得テ其外
飯田左馬允家貞父子ヲ始テ取テ去ス命ヲ頒ス
佐竹方依江内膳黒沢甚兵衛小川刑部右衛門江
尻軍兵衛小野崎織部荒井甚兵衛切名ヲ遂テ敵
ヲ序原町ニテ押コメテ敵ノ附タル町口ノ柵ト
ニノ柵トヲ味方ヨリ持堅ム木村長門守重成ハ
今宮ヲ守リテ在ケルカ備前嶋ヲ持固ル勢ノ中
ヨリ急ヲ告シカハ河崎和泉上村金右衛門ニ根
柵ヲ知徳院カ砲率五十人ヲ副テ遣シケレハ此

肇町下ノ柵ヲ守リテ此佐竹勢ヲ迫立其柵ヲ取
返セシ義宣カ兵ハ尚三ノ柵ヲ持固シ火砲ヲ發
ス然ルニ秀頼群臣ト共ニ京橋口ノ櫓ニ登リ此
戰ヲ監臨セテレシカニ後藤又兵衛味方ノ兵氣
迫ルニ西處ニ利ヲ失フ由演ケレハ汝等馳
向テ敵ヲ逐退シテ未者下知セテ此則大野治長
兵ヲ率テ信濃野ニ向テ七組ノ頭ハ天満ノ若ヲ
修シ川ヲ渡セテカニカ則馳向テ木村カ士大井何
右衛門高松内近火砲ヲ率テ從テ追テ十餘人今
福ノ戰場ニ來リ追テ長門守モ至リケレハ佐竹

勢三ノ柵ヲ奪テ二ノ柵ヲ守リ敵味方各柵二重
宛テ拍入火砲ヲ發スル處木村カ從士柳右衛
門小船ヲ堤ノ北ニ擔入横合ニ砲ヲ發ス爰ニ於
テ木村重成今年七ノ歲能圖ニ三ノ柵ノ木戸ヲ
開カセ頻リニ二ノ柵ノ口ヲ破テ其與カ松浦弥
左衛門ト堀田勝嘉カ從士淺野清兵衛先登テ首
ヲ得ニ繼テ高松内近及大野半次郎小川甚左衛
門鎗ヲ合セ重成躬ニ攻テ突戰ニ後藤又兵衛入
替テ鬪ニト使テ遣ス處重成カ曰今是程取組メ
ル場所ヲ他ニ讓ニトセハ色メキ立テ却テ敵ノ

爲二利ヲ失ヲ事ヲテニ殊ニ足下ハ場敷アリ初
陳ノ重成ト入替ニト少寔ニ情ト七ト申送則テ
レハ後藤重子敵ハ圍越ヨリ連綿ニ押来ル大軍
入替ニテ蒐レハ爲方計力ニ提ハ之堤ハ曲リタル
処ニ附居タル敵ヲ追拂柵ヲ取戻シテ然レハレ
トテ河舩ヲ取寄鐵ノ楯ヲ双ハ輕率ヲ棄セ深田
ニ廻シ火砲ヲ横ニ打セケレハ佐竹勢色メ々木
村長門守勝ニ棄テ堤ノ上ヲ進ニテ柵ヲ破リ佐
久間藏人一番鎗ヲ合セテ則戰死ス其餘若松市
郎兵衛日下次郎右衛門小川外左衛門大野半次

市舟藤嘉左衛門大塚勘左衛門高松内匠長屋平
大走鎗ヲ合ス佐竹カ部將浩江内膳ハ今朝ノ軍
ニ疵ヲ被テルト云ハレ從兵六騎ト氏ニ味方ヲ
勵シ力戰セシカ火砲ニ中テ馬ヨリ落テ敵寺本
八左衛門ニ首ヲ得テル其外佐竹ノ勇士白土嘉
右衛門小野崎源左衛門高垣兵右衛門小田部五
郎左衛門等戰死ス
○信茂野表ニテハ此節上杉カ先鋒須田大炊次
長義カ隊長石坂カ火砲百挺ヲ以テ二ノ柵ヲ拘
一守ル処ニ渡辺内藏外紀木村主計宗明竹田榮

翁等競ヒ蒐リシカ今福ヨリ後藤又兵衛カ放チ
セケル横合ノ火砲ニテ須田カ備色メク刻七組
ノ頭モ渡辺等カ跡ヲ誥ル工一城方先登ノ士大
ニ競ヒ頻リニ攻撃ケレハ石坂新左衛門并其組
ノ輕率二十人其場ヲ去スニテ命ヲ殞ス須田カ
備遂ニ崩レテ市川左衛門関十郎兵衛針生市之
存原庄兵衛駒沢與五郎戰死ス嶋津玄蕃允モ沼
ノ中一実落サレケルカ起騰リ敵トカ戰ニテ切
名ヲ遂ル松本今兵衛北村茂介殿ニテ首級ヲ得
夕リ景勝カ二陣安田上総介ハ備ヲ横ニ立固メ

待儲ル處須田カ敗兵景勝旗本一雪顔懸ルトス
ル時本陣ノ前備杉原常陸介火砲ノ率ヲ三段ニ
備一金ノ鎗ノ馬蹶ヲ揮ケレハ須田カ敗兵左右
ニ合ル、此第杉原カ隊ヨリ頻リニ火砲ヲ發シ
安田カ兵勢筋違ニ爲リ勝ニ乘テ進來ル敵ヲ突
崩ニ行田兵庫同大助岡村土之介小早川左兵衛
等ノ城兵ヲ討捕杉本兵衛湯川治兵衛田邊八
左衛門幡枝勘ケ由米村嘉右衛門平山藤兵衛茨
木五左衛門安宅木源八等ノ城方ノ銳士踏止リ
苦戰ニケレ其備立直ス丁ヲ得ス右府秀頼薙

口ノ師亮沢主殿ハ盛秀返ニ戦フ上杉方坂田宗
女突薨レハ穴沢忽入コニテ来ル処ヲ坂田鎗ヲ
弃テ組伏穴澤カ首ヲ得タリ彼薙刀ヲハ直江兼
續カ陪從折下外記分捕スト云ク須田大炊介ハ
初敗軍ノ刻家從五人ト氏ニ敵中ニ紛レ居タリ
シカ此時躬ツカラ太刀討メ疵ニテ所蒙リ十カ
テ首二級ヲ得テ其臣皆首ヲ提ケテ皈リ来ル僅
ノ堤ノ上ニテ戦フト云ハ氏數刻ノ間殊ニ敵ハ
多勢入替々々進ミ来ル景勝ハ迅速ノ出陣剗ハ
遠路ナレハ甚々微兵タル工ハ士卒大ニ疲勞ス

左軍ノ堀尾山城守忠晴後軍ノ丹羽長重救ニト
スルニ土地狹然モ景勝カ軍旅ノ法令甚々嚴ニ
ノ一人モ其場ニ交ルトヲ得ヌ或御使番住吉ニ
至リ敵大軍信幾野ハ出ルト言上ス神君ハ敵
悉ク出ル氏三四百十ルハ大軍トハ愚カナル
詞カト怒ラセ玉フ砌小栗又一皈リ来リ敵ニ
千許信幾野ニ出ル景勝微勢ニテ戦勞ル早々援
兵ヲ遣ハナルハニトテ敵間ノ見積リ委細ニ言
上ス斯テ堀尾山城守ハ堪ハ兼テ前隊堀尾河内
同修理前田丹後カ輕卒二百人ヲ進ル処敵方ニ

ハ秀頼下知アリテ大銃ヲ贈ラレ是ヲ以テ堀尾
勢ヲ打スクムル其時山城守ハ兼治拍ハ置ケル
伊賀甲賀雜賀ノ山林ニテ鳥獸ヲ打得タル火砲
妙術ノ族八十人ヲ遣シ大銃ヲ発テ敵ヲ挫シ
トノ此折柄遙カ遠キ蘆原ノ中ニ備ヘタル景勝
方鐵孫左衛門三百挺ノ火砲ヲ以テ勝誇リシ敵
ノ横ヲ打セ數多手負死ヲ致ス中ニモ秀頼ノ兒
小姓十人許軍ヲ見習ハシ為ニ差越レシ容貞美
齋十ニ高橋三十四郎衛門カ子十リ別所多門十時
歳藏十人火砲ニ當テ死ス神君ヨリ上杉方ヘモ

御使番ヲ以テ其兵疲勞スヘシ堀尾山城守ニ戰
地ヲ渡スヘキ旨命アリ景勝ハ胡床ニ腰ヲ掛
城ノ方ヲ白眼テ逞兵三百騎ヲ揃テ堂々整々ト
ノアリケルカ此仰ヲ聞テ色ヲ起メ曰走戰ニ
臨シテハ一寸増ト云諺アリ今朝ヨリ粉骨ヲ竭
メ取敷タル芝居ヲ他ニ譲リ引取ヘキヤ上意
ナリ氏叶ハカラスト景勝カ申セシ由言上セラ
ルヘシト答ヘ例ノ竹杖ヲ揮テ士卒ヲ勵シケル
誠ニ剛將ト謂フヘシ
○今福表ノ軍ハ木村長門守カ備銃ニ碎レ再ヒ

佐竹勢二三ノ柵ヲ取返サレ漸ク一人柵一重
ヲ保テ相闘リ敵ハ一塚金左衛門三浦將監柏原
覺左衛門山口猪兵衛等鎗ヲ合ヌ末ノ刻ニ及ニ
テ後藤又兵衛進ニテ柵ヲ破ラントスレ氏サレ
モ狹キ堤ノ上ニ木村カ勢相支ヘ餘地ナキ工ハ
柵ノ南ノ端ヨリ後藤カ兵ヲ廻シテ蘆原ヲ越テ
三ノ柵ヘコミ入セケレハ重成カ部下井上與兵
衛門知徳院波多野兵庫大井何右衛門牟礼彦三
郎是ニカヲ得テ競ヒ進ニテ鎗ヲ合ヌ佐竹方梅
津半右衛門戸村十大吏戸塚九郎兵衛秋田兵庫

今朝モ奮戦シケルカ又驍勇ヲ顯シ信太内藏介
大塚九郎兵衛加藤主鈴高屋五左衛門滑川八左
衛門吉成弥右衛門小ヶ川勝左衛門大和田源左
衛門高橋源太左衛門粉骨ヲ尽シ首級ヲ得ルト
云ハ氏敵方ハ仙石喜四郎山中藤大吏赤堀五郎
兵衛田中堀等勇ヲ勵シケレハ佐竹方中村信濃
塙治部左衛門町田小左衛門宇佐見之十郎以下
戦死ス數度ノ迫合ニ佐竹勢甚ク疲勞シ既ニ敗
亡セントス義宣ハ今度急ノ御陣觸工ハ秋田ハ
遼遠ノ地ナレハ勢ヲ揃ヘ登ルハキ餘日ナク

微兵タルニ依テ敵ヲノ勝ヲ取シム爰ソ義宣カ
尸ヲ晒スヘキ場也士卒皆ト共ニ命ヲ弃ヘシト
牙ヲ嗑テ罵リ十カラ川向ノ柳原カ援ヲ得ント
欲スル処ニ信茂野上杉カ部將杉原常陸介親憲
ハ古具足ノ上ニ猿樂ノ法被ヲ著シ其鉢錦ノ直
岳ノ如ク鮮然タル出立ニテ沢某ヲ以テ大和川
ノ瀬ヲ伺セ忽チ兵ヲ率テ川ヲ越敵陣近ク此レ
横合ヨリ火炮ヲ發シケレハ城兵大ニ僻易ス柳
原遠江守カ組ハ稻田村ニ在テ其魁兵信茂野川
ノ端ニ屯メ本陣ノ旋ヲ守リ空ク景勝義宣カ軍

ヲ見物シケルカ佐竹カ敗セシトスルヲ見テ恠
ハ兼一番ニ康勝カ士川井三弥川水ヘ飛入泳ン
トセシカ室穂ニ水入テ沈シトシケルヲ貴志角
之丞相續テ川ヘ飛入鎗ノ鑄ヲ以テ三弥カ總角
ヲ突テ漸ク向ノ岸ニ押付共ニ岸ニ登ル渡部八
郎五郎清水久之郎向井吉大夫同十左衛門日根
野左衛門伴田外記佐野五右衛門村上久兵衛等
二十三人川ヲ越テ菟リ来ルヲ見テ木村長門守
今日ノ軍是ニテ也ト白旄ヲ揮テ兵ヲ退ケント
又平塚左因幡守爲廣カ子也大井何右衛門左右ヲ下知

之勇ヲ奮七堤ノ上ニテ引取敗大井ノ火銃ニ中
リテ命ヲ殞ス柏原覺左衛門塚金左衛門三浦將
監三浦彦大走踏止ル時久瀨民部淺井甚内行
村左兵衛柳原庄兵衛援止来リ後殺之ケレハ味
方モ左ノ之慕ハカレ工ハ城兵柵ヲ振直ニ行東
ヲ付備ヲ設ケ佐行方モ寃竟ノ士二十餘人命ヲ
失フ此時後藤又兵衛毛火砲ニ中リケレカ其疵
ヲ探リ吾疵淺シ秀頼ノ運末々盡スト稱ス諸人
其豪言ヲ憎メリ
○信茂野ニテハ城兵大ニ勇ヲ奮フト云ハ凡銃

孫左衛門カ火砲ニ打立ニレ青木民部少輔一重
四半ノ搦物ニ富士山ヲ盡キ是ヲ帶ニ兵ヲ収ル
體傑然タリ丹羽五郎左衛門長重奈何凡ノ先陣
ニ加ハラント来ル事四五町ニ及ヒケルカ是ヲ
見テ一重今一町ヲ過テ来ラハ撃取ニト欲ス其
臣大屋與兵衛カ曰青木武功ノ士タリ速ニ兵ヲ
収ムハニト其詞終ラカレ民部少輔周旋ヲ勢
ヲ引揚ニノ柵ヲ拘ハ守レ内御使番佐久間小栗
屋代安藤伊藤等住吉平野ニ至リ此西口ノ戦ヲ
演達スルヲ詳ナリ夜入世台徳公ヨリ三宅半七

郎ノ御使トノ本多出雲守ニ命ヲリテハ其
部下真田河内守信吉同内記信政淺野宋女正長
次仙石兵部少輔好俊秋田城久實季新庄主殿直
好俊任越 查下石見守重綱須賀橋津守勝政ヲ引
率ニ今福ニ至リ佐行ニ代テ死スハキ者ナリ佐
行ハ堤ノ上十町口ト柵四重ヲ破リ其内二重ハ
取返サレ其兵多ク死傷ニ上杉モ柵ニ重ヲ破リ
一重取戻サレハトヲ怒テ明日黎明ニ再ニ攻襲
ハトト各其用意ス今薄暮參遠ニ名ヲ得タル久
世三四郎廣宣坂部三十郎廣勝此兩戰場ヲ巡視

シ兩公ハ言上シケルハ堤ノ上ヨリ進ニテ攻
ニトスレハ狭クノ多勢ヲ用ヒ難シ是ニ依テ雌
雄決スハカラスト云ハ凡吾軍堤ノ左右ヨリ火
砲ヲ放シ接ニ撃ハ何リ柵ヲ破ラサルハケシヤ
然レ凡堤ノ接キニ微勢ヲ以テ柵ヲ守ラハ吾モ
亦再ヒ敵ニ破ラレハ去十カラ敵兵遂ニ守リ
難キニ倦シ必今夜中ニ城中ニ引退クハシト云
果シ夜ノ内ニ敵兩所ノ柵ヲ奪テ青屋口ヨリ引
入曉ニ及ニテ本多出雲守ハ部下ノ勢ヲ率テ今
福ニ至リ佐行ト相代テ死ヲ設ク

○信茂野今福ノ軍ヲ或ハ二十五日ト書スハ
大ニ非ナリ幸嶋若狭山口休菴カ手記ニ悉ク
信スヘカラス
○傳ヘ称ス今福ノ軍ノ敵松浦弥左衛門戰場
ヨリ首ヲ城中ニ持参シ帳面ニ載ニテ欲ス時
ニ秀頼ノ執筆白井甚右衛門暫ク筆ヲ傳フ猶
豫スル処ニ淺野治兵衛又首ヲ携ヘ来リ一番
首ヲ得ルト云ヘ氏歩兵工一遅参ノ由ヲ述ル
時ニ筆者一番淺野ニ番松浦ト記ス一番首ハ
論アルモノナレハ二級ヲ見テ後ニ記スト是

故實也ト云

○是日 向井小濱千賀九鬼敵船ト挑ミ闘フ千
賀ハ大野修理亮カ船艙ニ井樓ヲ揚テ往反輒ス
キ盲船ヲ乗取小濱ハ福嶋表ノ遠見櫓ヲ陥シ且
分一ト云フ地ニ至ル爰ニ敵船數十艘繫置ケル
カ船中ノ兵皆陸地ニ逃騰ル工一味方ハ彼軍船
悉ク乗取畢ニ又九鬼長門守カ兵殊ニ切ヲ竭ス
是ヨリ海口ノ通路閉クニ似タリト云ヘ氏馬喰
淵阿波座土佐座ノ敵軍蘆嶋五分一辺ニテ時々
張ニ吾兵是カ爲ニ聊カ自由ヲ得不然レ氏東西

南北ノ寄手大坂惣曲輪并外墨ノ周回十餘里ノ
間ニ充滿ノ旌旗天ノ霞ノ縣波砲声地ノ震ノ十
云々
武德編年集成卷ノ七十一終

